

出場校の横顔

上

「甲子園出場最後の関門」としてファンの注目をそそがれるが、勢い地高、八戸高（以上青森）あひる第三十七回全国高校野球選手権大会は、秋田高、秋田商（以上秋田）この他、盛岡を代表する三十一日から三日間盛岡市宮球場に球宴の幕をあける。ここ数年甲子園大会から遠ざかった本県勢も今年は地元で迎撃つだけ奮起一番の激闘を繰りかえす。

洗練された守備

ヒノキ舞台踏んだ強み

らぬようになった。この投手難の

（写真は秋田高チーム）

秋田 ①投手陣に人なく、県大会の下馬評でも秋田高を優勝とみる向きが多かったが、予想を裏切つて優勝したのは、同いづつも第一回大会からの伝統と一昨年、昨年と甲子園のヒノキ舞台を踏んだ経緯が最大の原因とみられている。

②主戦の中川はシーズン開始直後肩を痛め、それが全快した今日でも以前とは違った一段モーショントなり、武器とするカーブはアウト・コースに流れ過ぎるようになりしは、はたして苦しまねばならぬ。



苦肉の策として山谷監督は決勝で中堅の伊藤を投手に起用、一年生ではあるが何事も恐れぬフレンド度胸と、大きく割れるカーブで勝利を占めたことは中川、佐々木、小野岡と数こそあるが頼り得ぬ投手陣に大きな希望を持たせている。

③守備は主将の清水を中心とする内野陣は三塁にややもろさを感じるが左から北村、伊藤若しくは中川、小西と配した外野陣ともに完璧に近く、その洗練された守備は奥野陣一の真鍮を示している。

好妙なるバント戦法

荒削りだが意表つく

野辺地高

①最近めざましきその快腕振りを発揮した有名投手を持つ野辺地は、郡部チームではあるが文字とおり青森県予選大会ではそのダーク・ホース振りを発揮、自他ともに許していた優勝候補の八戸高を十三回延長の末2A-1で破り、郡部チームとした。これは十五年ぶりの優勝を挙げた。

②同チームには定まった監督と



うものがないが、奥羽大会でもチーム・ワークをもって全力を尽くして戦いたい。

333223331211
333223331211
名橋中村本藤高沢田沢谷

（写真は野辺地高投手）

下位打線の発奮を

外野の好守備と共に期待

盛岡工

①戦後野球部結成以来、奥羽大会出場は一度目、県大会ではダーク・ホース屋に惜敗したが、投、攻、守ともにまとまった実力をもち、県代表としても最も期待されるチームである。このチームの大きな強みはなんといっても球質の異なる三人の先発投手に恵まれていること、ナインのバックボンの存在ともいえる。

②春以来の好調で県大会からエースとして登板した小野は、新人ながらフレンド度胸も良、大きく割れるカーブを武器として制球

勝敗は投手陣に

小粒ながら闘志のチーム

一戸高

①スケールは小さいがめざましい奮闘ぶりに一閃、福岡という名門、古豪をなぞり、初の奥羽大会出場権を獲得したこのチームは、粘り強い闘志と内野の好守で好感のもてるチームである。しかし肝心の投手力が弱体であり勝敗はその日の投手陣の出来に一つにかかっている。

②主戦山岸投手は左腕からくり出すシュートとインローを武器として県大会には毎回三振、アウト・コーナーにかかる速球もかなりの威力をもっているが、試合度胸が弱く、制球力にも難がある。リリーフの山田はカーブを武器とし制球力もあるがスピードのない弱味があり、今大会での起用はまず無理だろう。



（左）一戸高投手陣（右）盛岡工投手陣

③三塁根反を中心とする内野陣は、スピーディな動きと堅実な捕球に県下随一の呼声もあるが、とくに主将根反は広い守備範囲とライントにチームの大黒柱でもある遊撃手、二塁三塁、一塁浅里などいすれも安定感のある固い布陣である。外野も佐々木、金田一、大谷と好走、好守をそらえてます。

④根反、浅里、山岸らを主軸とした打撃陣は、短打主義のムラの少ない好打線を形成しており、とくに根反は強く「打勝て」と

①一打撃は瀬川、熊谷、坂本といったクリーンアップ・トリオを主軸にムラのない短打主義を身上として秋田高、八戸高といった強打チームと争うためには、下位打線の安定が必須だ。一般に攻撃が粗雑であり、迎えたチャンスに十分にもつただけの周到さと堅実さが望まれる。

13323232323
野寺徳谷本由田川
野谷
小角能坂志藤才壽
投捕二三遊左中右

岩手高野球部監督

川村昌司君

若さで部員統率

◇…大会前には予想もされなかったが、一戦一戦打勝って、一躍東北高野球界の主座にのしあがり、岩手高野球部の監督は誰あろう若くして四歳の川村君である。

◇…大会前には予想もされなかったが、一戦一戦打勝って、一躍東北高野球界の主座にのしあがり、岩手高野球部の監督は誰あろう若くして四歳の川村君である。

◇…大会前には予想もされなかったが、一戦一戦打勝って、一躍東北高野球界の主座にのしあがり、岩手高野球部の監督は誰あろう若くして四歳の川村君である。



手と一しよ。彼が岩高投手時代
に遊撃手として守備の中核とな
つていた。農大でも二年のとき
まで野球部に籍を置き、一時は
三塁手として東都大リーグにも
出場したが、勉学に専一するた
め退部し、その後は父なき母を
助けて、アルバイトしながら学
業に励んで大学を終えた苦勞人
でもある。ちよと野球部を退
いたころ、母校からの声がか
りあつて、休暇で帰郷した折に
コーチするといふことで監督に
就任。以来三年間岩高野球部の一
員として指導してきた努力がこ
ん心実を結んだわけ。

◇…指導のモットーは「練習は
試合のどくく試合は練習のこと
くく」文字通りの猛練習で
たたきつけた。その成果が大会

〔写真：川村君〕

奥羽大会の勝者は？

三県スポーツ記者の座談会



野球ファン待望の第三十七回全国高校野球選手権奥羽予選大会はきょう三十一日から八月三日までの三日間岩手(四)青森(二)秋田(一)の三県代表八チームが参加して盛岡市営球場で盛大に予選出陣式を挙げて、球壇がくりひろげられる。

この組
合せも
三十一日
午後二
時から
の主持

本社 組合せが決まったが、これをみての感想を。
秋田 A 実におもしろい組合せだ。秋田にとっては恵まれたといえる。
青森 B 青森としても恵まれた組合せだ。岩手さんにはお気の毒のような気がする。(笑)

秋田は、このチームだといっているが、岩手が単打戦法で先取得点をあげれば、岩手の方が歩がある。第二試合の一戸高対野辺地は、野辺地のほうが有利な試合と見られる。野辺地は、先取得点をあげれば、岩手の方が歩がある。第二試合の一戸高対野辺地は、野辺地のほうが有利な試合と見られる。

秋田は、このチームだといっているが、岩手が単打戦法で先取得点をあげれば、岩手の方が歩がある。第二試合の一戸高対野辺地は、野辺地のほうが有利な試合と見られる。

秋田は、このチームだといっているが、岩手が単打戦法で先取得点をあげれば、岩手の方が歩がある。第二試合の一戸高対野辺地は、野辺地のほうが有利な試合と見られる。

ずば抜けた『強豪』なし

岩手勢には地の利

秋田 A 野辺地が先取得点をモノにさすればまずしめたものだ。ただ、打撃は金本バント戦法なので、三打点以上の得点はむずかしいのは、さういふ点がある。

秋田 B 精神が乱れなければ、秋田は、このチームだといっているが、岩手が単打戦法で先取得点をあげれば、岩手の方が歩がある。第二試合の一戸高対野辺地は、野辺地のほうが有利な試合と見られる。

秋田 C 野辺地は、先取得点をあげれば、岩手の方が歩がある。第二試合の一戸高対野辺地は、野辺地のほうが有利な試合と見られる。

本社 最後の八戸対宮古もなかなかおもしろいゲームになりそうだが。

東奥 八戸の六下監督(皇大出)だつて奥羽大会は必ずモノにすると思つてゐる。ところが宮古と当つたんでいさかか面食つたという形だ。というのは岩手高、盛岡工、一戸といったチームは試合をして実力とクセを知つてゐるのに宮古は全然未知数だ。それに眞洞投手は剛速球で堅下の一の好投手だとくるから八戸の精神的な受取り方は微妙だと思つね。県大会の決勝で野辺地に敗れたのはグリーンアップ・トリオの不振だつた反面野辺地の匿名投手の予想外の

出席者(順不同)

河田三郎記者(秋田縣新報) 信太郎一記者(同) 岩淵 義弘記者(東奥日報) 本社 高橋、村田記者

快調もあつた。しかしファイトと試合運びはうまいし、奥羽大会での眞袋も十分に健闘を期待してゐる。宮古の眞洞投手が剛速球だと八戸とすればかえつて好餌とも思つてゐる。守備はますますといつてゐる。中島投手もトップ・コンディションになる宮古の眞洞が剛速球ならエース中島だつて剛速球の持主で相手打者によつては力をセーブする細い差も心得てゐる。さき眞洞との一騎討ちでつちが投げかつた相手並見したいものだ。本社 八戸は名門であるならば宮古は新鋭といつてゐる。宮古は新鋭といつてゐる。宮古の眞洞投手は、



のある速球と打者の前に急に落ちるドロップ、それに威力をましてきたインコーナーのシュートで八戸が果して打てるかどうか。打撃も佐々木、金沢、梅沢といったグリーンアップ・トリオがめきめき上昇の打撃にあるから、八戸の巨人投手陣を打ち崩す力があると思つたい。東奥 八戸は投手は六尺もある巨体で超剛球だ。打撃だつて三番福島、中島といった中堅どころはよと当つてゐる。過去の成績は十八勝一敗で岩手勢にはいつも勝つてゐるので、眞洞投手をよく警戒して思つておつた。秋田A 私八戸の力を知つてゐるが宮古は全然わからない。ただ眞洞の力は秋田でも美はうわさにのほつた位だが名門八戸の方は何んとも重畳感があるようだね。本社 では第一回戦は結局どうゆうところが勝ちますかな。秋田B Aブロックでは秋田高と野辺地を推すね。本社 いや野辺地に一戸が勝つてさうだ。東奥 私も秋田さんと同じく秋田高と野辺地が勝つてほしい。本社 Bブロックでは。秋田 少差で盛岡工に秋田商が勝ち、同じく宮古に八戸が少差で勝つた。しかし準決勝で秋田商と八戸の対戦はどうか全くわからん。東奥 今年は八戸高を甲子園に送り出した。秋田A Bブロックで秋田商がよく岩手と青森両県の相手を防備してくればまたしてもAブロックの秋田高が甲子園にゆけそうな気がするね。本社 岩手勢だつて名門古豪ではないにしても地元を利を得て予想以上の活躍を期待したい。

秋高対岩高で開幕

奥羽予選大会は廿一日午前七時三十分開会式を行い、午前八時の秋田高対岩手高の一戦で火ぶたを切る。ここ数年甲子園大会から遠ざかつてゐた本県勢は秋田、青森の強豪を地元で迎へようとしてシシ奮闘の活躍を期待されてゐるが、各校ナインはいずれも熱と闘志に燃え戦意を奮つてゐる。

また八チームの選手達は三十日午後三時、主将会議のもと市役所会議室で行われた山本市長招待の歓迎会に出席したが、山本市長、瀬川市体協会長、樋口県高野連盟会長らから「全力をあげて堂々の戦いをしてほしい」と激励の言葉があり、記念品をおくられ、その後

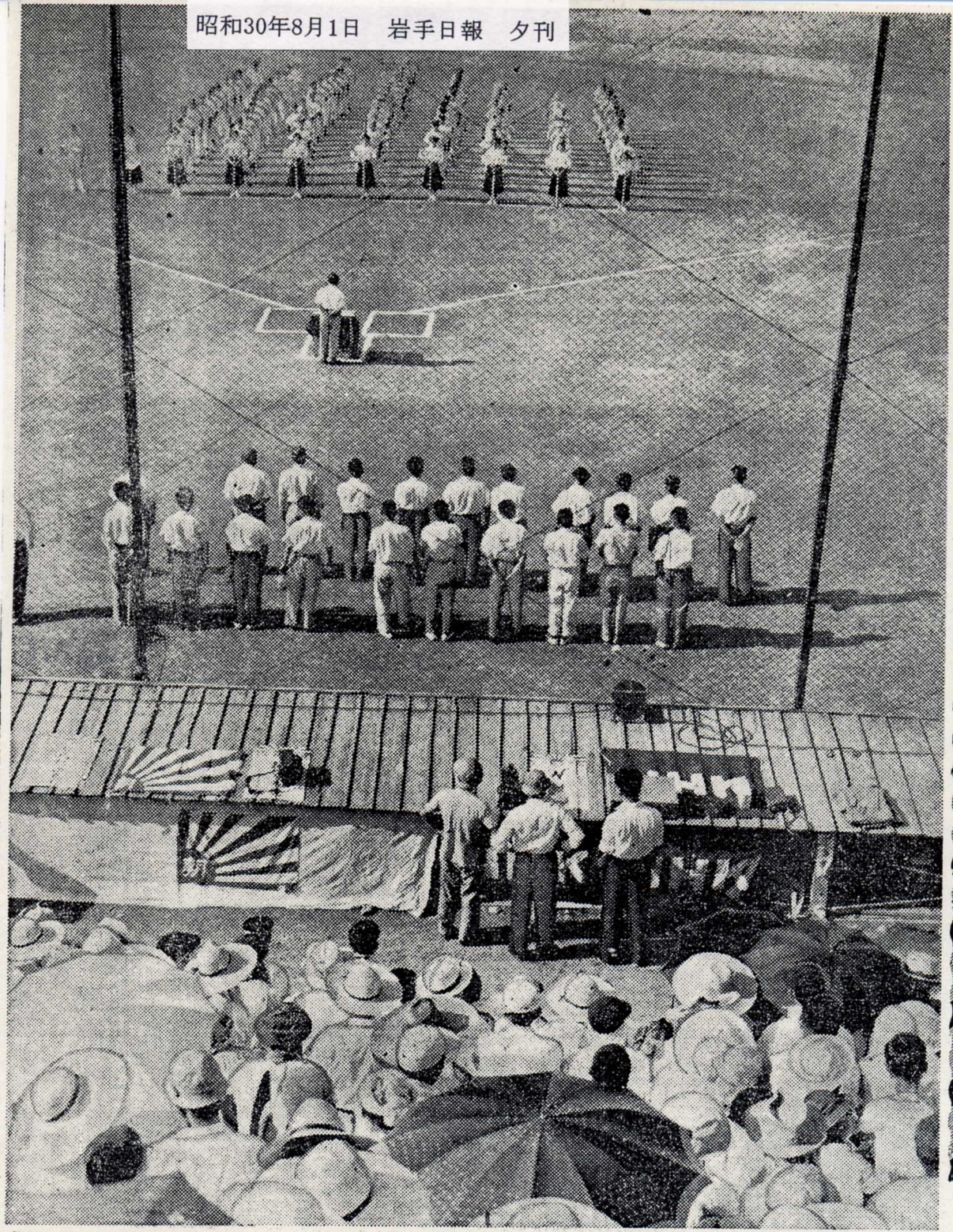
各校校歌斉唱によるエール交換などが行われ、戦前のなごやかな一時をすごした。

きよの試合

◆準々決勝
秋田高—岩手高(午前8時)
一戸高—野辺地高(午前10時)
盛岡工—秋田商(午後0時)
八戸高—宮古高(午後2時)

駅、球場間 岩手中央バス 会社はきょうに臨時バス 三十一日から八月一日まで行われる高校野球奥羽予選の期間中、盛岡駅前から市営球場まで次のバス臨時運転を行つた。

マ三十一日 盛岡駅前七時三十分から午後三時二十分まで十分なりし三十分毎に、市営球場



高校野球
奥羽予選開幕

あこがれの甲子園への最後の
関門である第三十七回全国高
校野球選手権奥羽予選大会は
ファン待望のうちに三十一日
から三日間、盛岡市緑球場で
青森、秋田、岩手の三県代表

八千一
ム参加
して炎
熱のも
と、熱
球譜の
華を切
つて浴
した。
まず武
合に先
立ち豪
華な入
場式は
前年長
優勝校
秋田高

を先頭に、白一色に埋めつく
した大観衆の割れるような拍
手に迎えられ掌々と入場、白
縷まはゆいタイヤモンド中央
に整列、形のごとく開会式が
行われた。

炎天下に熱闘の幕開く

全国高校野球奥羽大会

野球ファン待望の「みちのくの球宴」第三十七回全国高校野球選手権大会は三十一日秋田、青森、岩手の三県代表八チームの精鋭を率い夏の盛岡市営球場に開幕、若人たちは晴れの甲子園出場をかね熱闘を繰り広げた。試合に先立って午前七時二十分から全選手による開会式が行われ、午前八時新鋭岩手高対古豪秋田高の一戦で激闘の幕は切られてきた。この一戦を見むもの」とつめかけた各校応援団及び一般ファン約一万は球場内外野を白一色に埋めた。まず第一試合地元で迎え打つ岩手高は四大会以来の好調を保持し、村川の好投と打線の快調が相まって強打秋田を全、おさえ4-0とシャットアウトで第一戦を飾れば、続く第二試合の二回は前半戦名の好投にさらされながらも七回持前のねばりからチャンスをものにし三本の長打打を集中三点を奪い、追いつける野辺地を山岸の好投でしりぞけ、これを準決勝のラッキー・コースをほく進、この日随一の好試合、盛土対秋商の一戦はいすがる野辺地を山岸の好投でしりぞけ、これを準決勝のラッキー・コースをほく進、この日随一の好試合、盛土対秋商の一戦は前半小野の好投に助けられた盛土が善美にチャンスをものにし追する秋商を瀧川の継投で振りきりこれも輝く勝利を獲得した。

岩高 盛土 共に秋田勢降す

二戸も野辺地高に勝つ

秋田高 000 000 000 000
 岩手高 010 021 00A 4A0

秋田先攻 午前八時八分開場(球審 島津 塁審 村松(武) 菊池(一) 高野)

【試合経過】(一回) (秋田) 北村四球、大淵投前犠牲バント、北村三球、清水三振、小西中飛、岩手板垣三ゴロ、多々井四球、田中三振、(二回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(三回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(四回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(五回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(六回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(七回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(八回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(九回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、

【秋田高】	打	安	犠	四	盗	一	失
北大清	3	4	3	2	2	3	2
小男伊	1	3	4	3	2	2	1
伊小佐	1	3	4	3	2	2	1
中佐	1	3	4	3	2	2	1
計	24	0	2	1	7	3	2
7649285311							

【岩手高】	打	安	犠	四	盗	三	失
板名田	5	1	3	4	4	4	2
小沢	1	3	4	4	2	3	3
佐村平	1	3	4	4	2	3	3
久々	1	3	4	4	2	3	3
計	29	4	4	2	6	0	5
5382669714							

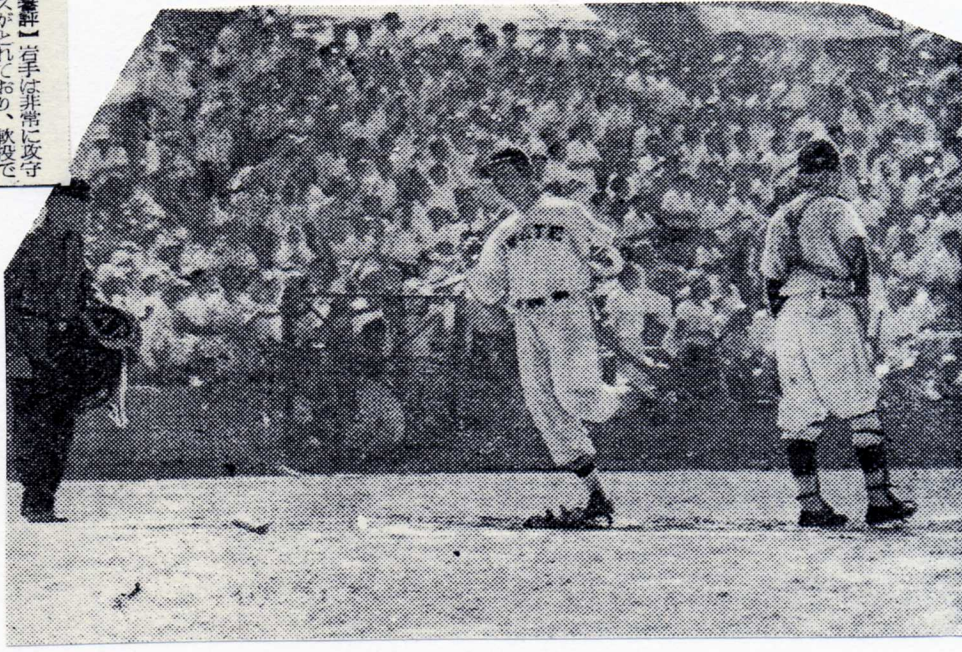
八校ナイン行進 球場で開会式

午前七時二十分から行われた開会式は大会優勝旗をささげる昨年度優勝の秋田高を先頭に岩手、一戸、野辺地、盛土、秋商、八戸、宮古の順でそれぞれ盛岡市立高校女子生徒の持つプラカードに従って入場、盛土の演奏の演奏する行進曲につれて球場を一周、

藤原教育庁次長、小川副知事などの祝辞激励のあいさつがあった。次に朝日新聞社のメッセージが読まれ、全選手を代表して岩手高田中主将が「高校生として堂々と戦うことを誓います」と力強く宣誓、八時八分小川副知事の始球式により戦いの幕は切られてきた。

【一回】(秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(二回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(三回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(四回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(五回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(六回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(七回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(八回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(九回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、

【二回】(秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(三回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(四回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(五回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(六回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(七回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(八回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(九回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、



岩手高対秋田高戦—二回裏岩手高二死後四球に出た佐々木、村川の左越二塁打で生還、先取点をあげる

【三回】(秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(四回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(五回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(六回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(七回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(八回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、(九回) (秋田) 栗田谷死球、伊藤三振、

岩手高決勝へ 対一戸戦

奥羽大会 準決勝 不調の投手に猛打

甲子園をめざす第三十七回全国高等学校野球選手権大会第二日目の一日は、前日の激闘に勝敗いた岩手二戸、盛上ら本塁勢と遠征軍でただ一つ勝ち残った青森代表八戸の四チームによつてしゅう雨の盛岡市営球場に準決勝一試合の火ぶたを切った。

第一試合は正午から秋山高に快勝した本塁勢の岩手高と青森県優勝の野辺地高の追撃を見事ふり切った新鋭一戸高の地元同士の対戦つづいて本大会優勝候補秋田高を一しゅうした好調の盛岡対他県でただ一つ勝ち残った名門八戸高戦をそれぞれ先行、前日地元アンの声援にこたえ準決勝にコマを進めた本塁三丁インはこの日も意気高く球場一ぱいの敢闘絵巻をくりひろげ、本大会はいよいよ高潮した。

高は決勝に進出した。第二試合青森八戸対地元盛上の一戦は郷土の期待をになつた両軍ナインの闘魂燃ゆるうちに二時五十五分熱戦の火ぶたを切った。

第一試合の岩手対一戸は県大会準決勝の再現の形で一戸高の土気奮るわず好調の波に乗った岩手高の打撃大いなるい4A対1で岩手一戸高 000 100 000 000 岩手高 001 120 00A 4A1

【岩津主審詳】一戸は主戦山岸が全く不振で四球の乱発から苦しい試合をした。岩手の村川はコントロールは良かったがあまりにも好球をそろえず、一戸の打撃が平常であつたらあ外の苦戦を招いたかも知れない。常にフアイトで打ち勝っていた。

【試合経過】一回(一戸)里茂ゴロ、北館右前安打、根反捕野飛、浅里遊ゴロで北館一封(岩手)板垣三ゴロ、名久井投飛、田口四球田中二飛(両軍0) 二回(一戸)山岸二ゴロ、佐々木三邪飛、三浦右飛(岩手)小泉遊ゴロ、沢野三振、佐々木補ゴロ(両軍0) 三回(一戸)夏井一邪飛、金田二ゴロ、里三ゴロ(岩手)村川中前安打つづく平野内野安打、板垣遊飛、名久井投ゴロで利川本封田口、田中四球で平野押出しの一点をあぐ。小泉三ゴロ(一戸0)

【写真】岩手高対一戸高戦三回裏、岩手高一死二、三塁のとき、名久井のバントで三塁走者川村本塁をついたが横死



【一戸】	打	得	安	犠	四	盗	三	失
里	3	4	4	3	1	3	3	3
北館	4	4	4	3	1	3	3	3
里茂	3	3	3	3	3	3	3	3
計	31	14	40	2	17	7	2	

【岩手】	打	得	安	犠	四	盗	三	失
板垣	5	3	8	2	6	9	7	14
名久井	4	2	3	4	2	3	4	4
田口	3	3	3	3	3	3	3	3
計	30	4	7	1	7	2	2	0

【試合経過】一回(一戸)里茂ゴロ、北館右前安打、根反捕野飛、浅里遊ゴロで北館一封(岩手)板垣三ゴロ、名久井投飛、田口四球田中二飛(両軍0) 二回(一戸)山岸二ゴロ、佐々木三邪飛、三浦右飛(岩手)小泉遊ゴロ、沢野三振、佐々木補ゴロ(両軍0) 三回(一戸)夏井一邪飛、金田二ゴロ、里三ゴロ(岩手)村川中前安打つづく平野内野安打、板垣遊飛、名久井投ゴロで利川本封田口、田中四球で平野押出しの一点をあぐ。小泉三ゴロ(一戸0)

【写真】岩手高対一戸高戦三回裏、岩手高一死二、三塁のとき、名久井のバントで三塁走者川村本塁をついたが横死

【四回】(一戸)北館一邪飛、根反捕野飛、浅里中飛、山口の右前安打で根反一塁から一塁生還佐々木三振(岩手)沢野四球、佐々木の犠打で一進、村川中前安打で沢野二塁から生還、村川三塁を望み外野からの好返球で三塁に刺さる。平野左飛(一戸1、岩手1) 【五回】(一戸)三浦夏井三振金田二ゴロ(岩手)板垣左フェンス上端に当る大一塁打、つづく名久井左中間を破る一塁打で板垣生還、田口中飛、田中三ゴロ小泉の左前安打で名久井生還、沢野一飛(一戸0、岩手2) 【六回】(一戸)里四球、北館三



甲子園に闘志わく

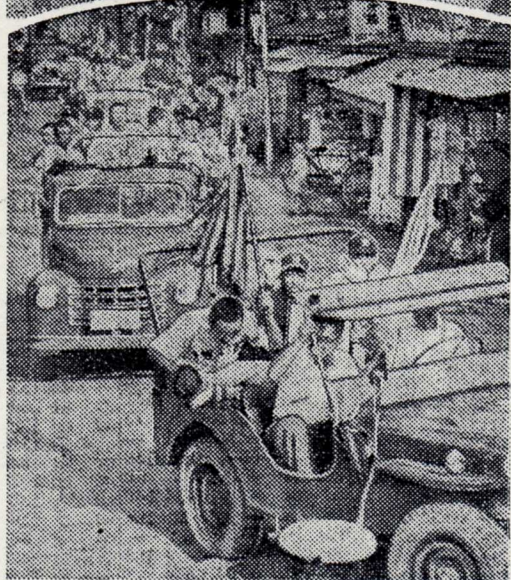
敢闘誓う岩高ナイン

奥羽大会 熱戦三日の幕閉す

甲子園出場を決定する全国大会奥羽予選最終日の一日は、本県代表の新鋭岩手高と青森代表の名門八戸高両雄が相まみえ決戦の幕を切つて落した。熱戦の結果岩手高が八戸を5-1まで降し、甲子園出場の栄冠をかち得た。

この日、天下の市営球場は若き球児のあやなす熱闘譜にまよめ、約一万の大観衆でうつつめられ、本県ファンの期待を一身になつた岩手高は全軍にみなぎる士気と、エース村川の投打にわたる快心の活躍でたえずリードを奪い猛打をうたわれた八戸の追撃をしりぞげ、昭和二十一年野球部創設以来苦節十年、選手の努力と精進はついに反響を結び数ある名門、古敵をしり目に岩手高校はあこがれの甲子園の夢が実現、十日から甲子園で開幕される晴れのヒノキ舞台に奥羽代表として雄飛する事になった。かくて試合終了後に行われた閉会式で優勝旗を授与され、甲子園での敢闘を激励されて三日間にわたる奥羽大会の幕を閉じた。熱戦の連続、よく秋田、青森勢の強撃をしりぞけて栄冠を本県にもたらし、初の甲子園出場権を得た岩手高ナインの心にはきたるべき大会への敢闘を期し闘志は早くも甲子園に飛んでいた。

閉会式は岩手高優勝の興奮もさめ、の拍手のうちに樋口県高体連会長、日新岡盛岡支局長、赤松県教育長、ないブレイを見せたことば誠にうやらの午後三時から盛岡市営球場 から田中岩高主将に手渡された。 などからそれぞれ、炎天下にもか れしい事だ。晴れて甲子園に出場で行われ、晴れの優勝旗は万雷、次いで樋口県高野連会長、鈴木朝、かわらす終始高校野球の名に恥じ、するに当って大いに活躍されんこ



勝利に歓喜爆発 ①輝く優勝旗先頭に球場を行進する岩手高ナイン ②勝利に酔う応援団席 ③市内を自動車で行進する選手と応援団

とを切望する。旨激励のあいさつがのべられ、代つて田中主将から「郷土の誇りをもち期待に報いるよう正々堂々戦つて来る」との宣誓がなされた。引続き「君が代」の演奏のもとセンター・ポール高くひるがえっていた国旗および大会旗が降納され、ここに三日間にわたつた奥羽三県の球児の熱闘絵巻の幕を閉じた。

次頁に続く

チーム力結集

村松審判長評

岩手の勝利は全くチーム全体の努力と精進がもたらしたものだ。これからの野球は投手だけにたよるものであってはならず、攻守ともに堅実な安定性のうちに形成されたものでなければならぬ。一回戦で敗れた秋田勢も相当の実力をもっていたが、岩手勢の盛上がる闘志はきょうの輝く勝利をもたらし、この闘志とネバリを保持して甲子園大会には堂々のコマを進めてもらいたい。

歓喜の行進

沿道の祝
福浴びて

『奥羽初優勝』『甲子園出場の夢実現』の勝利に酔う岩手高はこの日閉会式終了後先輩、在校生十余名が参加し十二台のジープ、ハイヤー、トラックを連れ、百余台の自転車隊とともに感激と興奮の市内行進を行った。雌伏九年余にわたる辛苦と努力の勝利だけに校歌、応援歌を歌う人々の心中は歓喜そのもの『みなさんの御声援のもとわが岩手高は甲子園出場の栄冠を獲得しました』と勝利を叫ぶマイクも割れんばかり。喜びと感激をのせたこのパレードは八幡宮に勝利の感謝をさげ、肴町一本町内丸大通りと市内目抜通りをねり歩いたが、沿道には勝利をたた

もに堅実な安定性のうちに形成されたものでなければならぬ。一回戦で敗れた秋田勢も相当の実力をもっていたが、岩手勢の盛上がる闘志はきょうの輝く勝利をもたらし、この闘志とネバリを保持して甲子園大会には堂々のコマを進めてもらいたい。

本県戦後六 奥羽代表として本県から甲子園へ戦後一

回目の出場 子園へ戦後一

関一高(二十一年) 福岡高(二十二年) 盛岡高Ⅰ一高、盛岡Ⅱ(二十四、五年) 盛岡商(二十七年) に続いて岩手高が六度目の甲子園出場(戦前を通じて二十一回)となったわけである。

える市民が紙吹雪、七色テープを飛ばし勝利を祝福、甲子園での活躍を声援した。

優勝までの戦績

晴れの奥羽代表として甲子園での全国大会に出場する岩手高が県大会および奥羽大会において優勝までの戦いをおとす。つぎのとおり。

- 【県大会】▽一回戦 不戦一勝
- ▽二回戦 岩手7...3 一関一高
- ▽三回戦 岩手12...2 黒沢尻北
- ▽準々決勝 岩手9A...2 花北
- ▽準決勝 岩手14...9 一戸高
- ▽決勝 岩手2...0 宮古高

【奥羽大会】

